

国語科（古典探究）学習指導案

指導者

1 履修単位数	2 単位
2 実施日時	令和6年10月 日() 第 時限
3 学 級	〇〇HR (名)
4 使用教科書	高等学校 精選 古典探究 (第一学習社)
5 単元(題材)名	登場人物の心情を考察し、他者と伝え合い考えを広げたり深めたりする (『源氏物語』 「若紫」)

6 単元設定の理由

(1) 生徒観

〇〇HRの生徒は、教師の指示や注意をよく聴きながら、古典的な知識を身に付けようとする姿勢がうかがえる。これまでの授業でも、提示された課題に対して、参考書等を確認しながら真面目に取り組む様子が見られた。しかし、古典文法の習得や本文の正確な内容理解に重点を置くあまり、教材を読み味わい、自分なりの解釈や意見をもつことや、自分の考えについて他者と話し合うことに対して消極的な生徒が多く見られる。

(2) 教材観

『源氏物語』には、時代を超えて人間に通底する心情が描かれている。本教材である「若紫」は、光源氏が生涯の伴侶となる若紫（紫の上）と出会う場面であり、多彩な登場人物との出会いを経た光源氏が若紫を見て流す涙にはどのような意味があるのか、多様な解釈の可能性があり、他者と伝え合って自分の考えを広げたり深めたりすることに適した教材である。

(3) 指導観

光源氏の心情を考えるためには、敬語・助詞・助動詞などの文法事項を確認し、登場人物の関係性を理解することが必要である。まずは基本的な知識を身に付けさせ、本文の内容を理解させたい。さらに、それらを基盤として、登場人物の心情を考察し、考えたことを他者と話し合うことを通して、新たな視点に気づいたり考えを深めたりすることができるようにしたい。

7 単元目標

- (1) 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。
[知識及び技能] (1) ウ
- (2) 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。
[思考力、判断力、表現力等] A (1) オ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

8 本単元における言語活動

若紫を垣間見て涙した光源氏を自分に重ねて、光源氏がこの後誰に対してどのように行動するかを考え、他者と伝え合う。

(関連：[思考力、判断力、表現力等] A (2) ア)

9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ((1) ウ)	①「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 (A (1) オ)	①今までの学習を生かして、自分の意見を積極的に他者と伝え合うことを通して、考えを広げたり深めたりしながら、作品を主体的に読み味わおうとしている。

10 指導と評価の計画（全9時間）

次	学 習 活 動	評価規準・評価方法
第1次 (1時間)	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○『源氏物語』についての文学史的な知識を理解する。	「知識・技能」① 「記述の点検」
第2次 (5時間)	○文法事項を確認しながら現代語訳に取り組む。 ○光源氏が若紫を垣間見て流す涙の意味を考える。	「思考・判断・表現」① 「記述の確認」
第3次 (1時間)	○涙した光源氏を自分に重ねて、光源氏がこの後、誰に対してどのような行動を起こすかを考え、スライドを作成する。 ○作成したスライドを班内で発表し合い、班ごとに発表用スライドを作成する。 ○全体で共有し、最も良いと思ったものに対して自分の考えの変化した点や深まった点を記入する。 (本時)	「思考・判断・表現」① 「記述の分析」
第4次 (2時間)	○尼君と女房の和歌から、若紫と尼君の今後を考察する。 ○ワークシートの記述を確認し、単元全体の学習を振り返る。	「主体的に学習に取り組む態度」① 「記述の分析」

11 本時の目標

登場人物に自分を重ねて行動を予想し、他者と伝え合いながら考えを広げたり深めたりすることができる。

12 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入 10分	<p>○本時の目標を確認する。</p> <p>○関連図を見て、登場人物の関係を確認する。</p>	<p>○前時の活動を確認し、本時の目標を理解させる。</p> <p>○光源氏が藤壺の宮を慕い続けていることを説明する。</p>		
展開 35分	<p>○光源氏を自分に重ね、涙を流した光源氏がある後、誰に対してどのような行動を起こすかを考え、スライドを作成する。</p> <p>○班内で各自が作成したスライドについて発表し合い、班ごとに発表用スライドを作成する。</p> <p>○各班の代表者の発表と授業者による補足説明を聴き、多様な解釈の可能性を知ること。</p>	<p>○スライドは予め配付したひな形を使用し、各自1枚にまとめさせる。</p> <p>○行動を起こす相手として、藤壺・尼君・若紫を挙げ、各自で選ばせる。</p> <p>○涙の意味と行動内容の整合性がとれており、班員の新たな気づきを引き出した意見を中心にして、適宜他の班員の意見を書き加えるよう指示する。</p> <p>○生徒の発表に適宜説明を加え、理解を深めさせる。</p>	<p>「思考・判断・表現」</p> <p>①</p> <p>・前時で考えた涙の意味を踏まえて、行動内容を具体的に記述している。</p>	<p>「記述の分析」</p> <p>スライド</p> <p>(MetaMoJi Classroom)</p>
まとめ 5分	<p>○本時を振り返り、目標を達成できたか確認する。</p>	<p>○最も良いと思ったスライドに対して自分の考えの変化した点や深まった点を記入させる。</p>		

13 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	前時で考えた光源氏の涙の意味と整合性がとれており、時代背景を踏まえた行動内容を記述することができている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	机間指導を増やし、適宜助言を行う。まず現代であればどのような行動をとるか考えさせ、それが平安時代という設定に戻ったときにどう変化するかを考えさせる。